

めざまちの姿と審議会の主な意見(第1部会)

分野	施策分野	めざまちの姿	審議会の主な意見	
安全・都市基盤	防災・消防	(2) 住み続けたい、安全で快適な暮らしがあるまち	○市民と行政の連携による災害への備えにより、自らを守り、地域で助け合う意識が高まり、地域の防災力が強化されている。 ○充実した消防救急体制のもとで、市民が安心して暮らしている。	・避難行動を自分主体でおこしていける高齢者をつくる ・あらゆる人が避難できるようにする ・防災会を充実する ・公助が自助や共助を促進するという循環が求められる
	防犯・交通安全		○誰もが犯罪や交通事故がなく、安全・安心に暮らしている。	
	土地利用・市街地・北部整備		○豊かな自然や住宅都市、観光文化都市としての特性を生かしつつ、人口減少、少子高齢化時代に対応したコンパクトなまちづくりが進んでいる。	
	住宅・住環境		○誰もがずっと住み続けたい、子育て世代が移り住みたいと思える魅力的な住環境が整っている。	・若い世代が住みやすい住環境を整備する ・避難がスムーズにできるかという視点も住環境を考える上では必要 ・京都市のマンションの自治会加入率は70%。スプロール化は地域を壊すことにつながる ・要介護になっても安心して暮らせるまちづくりが必要
	道路・交通		○車両や歩行者にとって安全で快適な道路環境の整備が進み、市民一人ひとりの生活を支える公共交通手段が確保されている。	・自動車による市内の移動を抑制するなど、交通システムそのものを見直していくことも必要
	河川・水辺空間		○河川の治水が向上するとともに、うるおいや安らぎある水辺空間がつけられている。	
	上下水道		○安全でおいしい水が安定して供給され、公共下水も適正に処理されている。	
健康・福祉	地域福祉	(3) 福祉が充実し、安心して暮らせるまち	○互いにつながり、認め合い、支え合いながら、生きがいのある暮らしができています。 ○安心して出かけられる環境や居場所があり、身近な地域で必要な支援が受けられる体制が整っている。	・若者の貧困・就労の問題など、若者福祉がない ・18歳から22歳の方々が気軽に集える場所がない ・若いお母さんなど、若い人の福祉を考えるということをしてはどうか ・外国人の福祉施策も必要ではないか
	高齢者福祉		○高齢者がいきいきと活動し、健康でいきがいのある生活を送っている。また、元気な高齢者が地域の様々な支え手になっている。 ○支援が必要になっても、適切なサービスが受けられ、住み慣れた地域等で安心して暮らし続けることができている。	・要介護になっても安心して暮らせるまちづくりが必要(再掲) ・女性より男性高齢者の方が閉じこもりがちで、福祉のお世話になる人が多い。外に出る機会が増えればそれを減らすことができる。 ・保育や介護をする従事者に対する福祉施策も考えないといけないのではないか
	障害(がい)者福祉		○障害(がい)者が地域で暮らしていくための様々な支援を受けながら、自立した生活を送り、社会に参加している人が増えている。	
	健康		○あらゆる世代で体とこころの健康づくりの取組が進み、安心して健やかな暮らしができています。	・健康でなければいけないというのは気になる。いろんな方々が、このまちで気持ちよく暮らすことを目標にするのは良い ・健康は、いろんなかたちで、いろんな状態の人が、それでもなおかつ、このまちで住み続けて、それに喜びを感じるという意味で捉えるべきである。 ・高齢者や障害(がい)者のみならず、働いている若者も含め、どんな人にも活躍の場面があるという意味での「健やかさ」というものになれば良い
	医療		○保健、医療、福祉の連携が進み、病院や在宅で適切な医療を受けられる環境が整っている。	
	社会保障		○安心して健やかな暮らしを守る社会保障制度が充実している。	・孤立者を減らしていくという視点を盛り込んでどうか
教育・子ども・人権	児童福祉・青少年育成	(4) 子どもの生きる力が育ち、誰もが自分らしく輝けるまち	○次代を担う子どもたちが、豊かな自然や文化に触れ、世代を超えた交流や地域、社会との関わりを持ちながら、心豊かにいきいきと成長している。 ○安心して子どもを生き育てることができる環境が整っている。	・子育てしやすいまちづくりが必要。みんなで子育てする ・ボール遊び禁止等の公園が多い。子どもや若い世代が集え、高齢者も見守るようなことができた方が良い ・環境教育に素晴らしい場所があるのに生かされていない(再掲) ・保育や介護をする従事者に対する福祉施策も考えないといけないのではないか(再掲) ・外国にルーツのある子どもの人権、多文化共生も言及していただきたい(再掲)
	学校教育		○学校や家庭、地域のつながりの中で、未来を切り拓く子どもたちの生きる力やふるさと宝塚を大切に育まれている。	・インクルーシブ・エデュケーションの視点をつくれないうか ・子どもの人権を侵害するような教育はしないということを加えていただきたい ・外国にルーツのある子どもの人権、多文化共生も言及していただきたい ・学校に行かない子どもも増えている現実を認めながら、どう受け皿をつくっていくか ・学校、家庭、地域の連携による、地域教育も大事である
	社会教育		○誰もが生涯を通じて学ぶことができ、その成果が個人や地域に還元され、まちづくりに生かされている。	
	スポーツ		○交流を通じた生きがいや健康・体力づくりのため、様々な人がスポーツに親しんでいる。	・障害(がい)者スポーツの推進も入れていただきたい
	人権・同和、男女共同参画		○すべての人の人権が尊重され、あらゆる人が自分らしくいきいきと暮らすことができている。	・外国にルーツのある子どもの人権、多文化共生も言及していただきたい(再掲)